

令和6年2月吉日

世田谷区立喜多見小学校
校長 森田 賢 様

世田谷区立喜多見小学
学校関係者評価委員会
委員長 坂本 雅則

令和5年度 学校関係者評価 報告書

新型コロナウイルス感染症が5類へ移行し、規制の緩和に伴い校内も子どもたちの元気な声と笑顔が広がり賑わいを取り戻してきました。

しかし、まだ油断のできない中、教職員の皆様には感染症対策と教育活動の両立に心を砕き日々大変な御尽力をいただき、心より感謝申し上げます。

このたび行いました「令和5年度 学校関係者評価」について下記の通りご報告いたします。

<学校関係者評価とは>

保護者、地域住民等の学校関係者などにより構成された学校関係者委員会が行う評価を言います。

- 目的・学校として組織的・継続的な改善を図ること。
- ・学校・家庭・地域の連携協力による学校づくりを進めること。
 - ・学校の教育の質の向上に努めること。

令和5年10月に児童、全児童保護者、及び地域の皆さまにご協力いただき実施された「学校関係者評価アンケート」の調査集計結果及び学校より提出いただいた「自己評価報告書」「重点目標の自己点検」、あわせて教員の方々からのヒアリングをもとにその分析・評価を行いました。

昨年度よりアンケートはWEB上での回答となりました。(アンケート回収率は50%)

新型コロナウイルス感染症による制限が緩和されてきた子どもたちの環境の変化、喜多見の地域性を踏まえた議論が行われました。

<令和5年度 評価委員会総括>

【評価の高かった項目】

児童・保護者の学校への満足度は高く、子どもたちは充実した日々を送ることができている。

交通ルール・あいさつは、例年評価の低さが目立っており当委員会でも議論されてきたが、今年度は児童・保護者・地域の方々からの評価が高く、日頃の先生方の指導やPTAや地域の方の見守りの成果と考えられる。

【キャリア教育について】

「キャリア教育」という言葉は近年出てきたもので、その差す意味が保護者に伝わっていない。そのため「わからない」という回答が児童・保護者ともに目立つ。キャリア教育という言葉も、日常に落とし込んでいけたらいいと感じる。学校公開などで映像を使うなど工夫した発信ができれば、保護者へも分かりやすく伝わるのではないだろうか。今の低学年がアンケート対象学年になるころには、今よりも浸透して評価が上がることを期待したい。

【先生について】

アンケート結果をみると、先生に相談できると思っていない子どもが22%いる。より多くの子どもたちが安心して過ごせる場となるためにも、この数字が少しでも減ることを期待したい。

本校は、校長や副校長が校内を見回ってくださっていることも多く、子どもたちに目を向けてくださっていると感じる。

今回のアンケートとは別に、定期的に全児童に対しての聞き取りはされており、先生とのコミュニケーションも取れている。またタブレットから区へ相談できるシステム等も整っている。

相談できる・できないではなく、相談する悩みがある・ないという解釈から、低い評価をつけている可能性があるのかもしれない。

先生方には、引き続き子どもたちの声や様子に目を向けて、子どもたちの安心安全な環境づくりにご尽力いただきたい。

【学習面】

学校からの宿題がタブレットになることが多く、高学年になると親子の会話も簡単になってしまい、保護者の目が届きにくくなることから、保護者の意識も低くなっている。

このデジタル化のデメリットが、回答の「わからない」につながっているのではないだろうか。

通塾の有無についての項目があるが、塾に行っていないのは、学校に満足しているからとも考えられる。通塾していなくても優秀な子どももおり、「塾に行っていない」ことが悪いとは言えない。

このアンケートの「塾」は進学塾なのか。補習塾、公文、通信学習など、家庭学習以外での学習の場は様々であり、回答者によりその解釈も分かれる。

アンケートの意図が分かりにくく、回答結果だけでは評価しにくい。

【保護者の意識】

回答の%を見ると評価について納得できるが、否定的な意見は必ずある。

時代の変化により、保護者の就労率も上がり、子どもも保護者も忙しい傾向にある。学校公開や学校行事に参加する人も少なく、家での学校や勉強に関する会話も不足し、保護者の子どもや学校への関心が低くなっている。それに伴い、学校からの配布物もしっかりと読まない家庭も多いなど、発信しても届かない保護者もいる。今回のアンケートの回答率が、50%であることにも、この傾向が表れている。

【労作活動について（喜多見独自項目）】

校内や学校周辺の畑が減少してきており、楽しいと感じている子どもは少なくなっている。
土が周りにはあるのは、喜多見の地域の特性としてよいことである。農業は生物的な知識やキャリア教育にもつながり、またレシピによる親子のコミュニケーションのきっかけにもなっている。
満足感は得られてなくても、労作の体験活動を通じての学びは多く、今後も喜多見の特色を生かして、労作活動には期待したい。

【読書について（喜多見独自項目）】

読書に関する評価は例年と同様に低い。
学校側の対策として、3プロジェクトの担当をベテラン教師にお願いするなどして、幅広い知識と経験を生かした工夫ができるようにして下さっている。
デジタル化により、子どもたちは文字よりも映像での情報収集に慣れている。絵本、漫画などでも、活字を追う機会を増やしていったらよいのではないか。

【区に望むこと】

アンケートが全体的に、質問の言葉が足りず、意図が分かりにくい。
回答者へ伝わりやすくすることで、意味のある評価につながると考えられるため、質問の目的の明記や具体的な表現などの改善を望む。
またWEBでの回答になったことにより、保護者からのアンケートの回収率が下がったことを踏まえ、回収率のUPを目指した対策も検討していただきたい。

【まとめ】

新型コロナ感染拡大以後、世の中の生活・行動・考え方が変化した。制限が緩和されて、コロナ拡大前に戻るものもあれば、新たに定着していくものもある。
こうした時代の流れに合わせ、且つ喜多見の特色を生かした児童のニーズに応じた教育活動を今後も期待したい。
区からのアンケート結果をもとに、毎年議論をしている当委員会だが、委員会内だけで終わらせず広めていくことで、喜多見小学校の児童が実りある学校生活を送れるようサポートしていく。